

良識ある保守主義・情報公開

# 吉田つとむ

町田市議会議員 (4期連続トップ当選)

<編集発行>

〒194-0011 町田市  
成瀬が丘 1-14-12  
サンホワイト E103-13  
自宅 042-795-7361  
FAX 042-795-2726  
yoshidaben@gmail.com



## 議員報酬の受け取り期間設定

町田市議選は2月20日に執行されましたが、議員の任期は3月9日からになっていました。議員の活動で言うと、その9日からスタートするのでは議会の会議の流れがスムーズにいかないのでは、実質的には議会スケジュールの非公式日程が選挙直後から入り、動いていきました。現実には、新たな議会会派(名称:無所属)の提出締め切りは、2月24日でした。



市議会の会派は、「無所属」(代表:松岡みゆき、新井よしなお、吉田つとむ)となりました。

ただし、議員報酬は任期が始まらない限り渡されることは無く、継続して当選した議員以外は、3月分の報酬は日割り(3月9日以降より)と言うことになっていました。その理由は、かなり以前の議会で議員の待遇に関するテーマを様々に設定して論議し、議員自ら、議員報酬日割りを条例で決めたものです。私もそれ(議員報酬の日割り支給)を主張し、実現した一人でした。

町田市議会の場合は、他の議会と比べて早期に、日割り方法を導入したもので、今風であったと理解するものです。今後、いただく議員報酬に恥じない働きをしていきたいと思っています。

## 請願審査では、反対討論

請願第4号は、「町田市の葬祭事業廃止に当たり、この事業の復活を求める請願」を審査しました。この請願は前期の議員任期中に継続審査となったことで、議員任期をまたぎ、廃案になっていたものだったということでした。他方で、この廃止を決めた条例案(町田市が行う葬祭事業・・・町田市シルバー人材センタに業務委託)は先の任期中(昨年12月)で可決されたというものであり、すでに廃止されたものだったというものでした。復帰してきた議員からすると、馴染みにくい経過を経ていました。

この葬祭事業は民間業者で広く事業され、現在では、規模では家族葬、火葬場にご遺体を直行する直葬も多くあり、その価格提示も利用者にわかりやすくなっているというものでした。ただし、市の葬祭事業が廃止になることの広報が十分でなく、利用者に戸惑いが起きていました。そのことが、市の葬祭事業の復活を望む声=請願につながり、今回の審査となったものです。私は、この請願に明確に反対討論を行い、現状の改善で行政の対応を改善させるべきだという趣旨の発言を行いました。採決では、共産党を除いて、他は請願に反対し、不採択(否決)すべきものと決しました。



参考:昨年コロナ期に行った実姉の葬儀

- ◎所属会派の名称はシンプルに「無所属」とし、3名の議員で構成しています。
- 支持政党なしの方々の代表=吉田つとむの基本理念は、良識ある保守主義です。
- 吉田つとむは、「若者育成」をトップの政策に掲げています。

●吉田つとむは令和4年2月の選挙で、市議会議員選挙4期連続トップ当選となる



若い世代の育成に全力をささげる  
町田市議会議員(4期連続トップ当選)

# 吉田つとむ



ブログ 個人HP



メールは  
左記を読込  
して送信



好評インターンシップは、ただ今、第49期生が参加中

## インターン体験記①岡本麻鈴

私は今回、原宿で開催されている「バンクシー展 天才か?反逆者か?」に行ってきた。タイトルにもある通り天才なのか反逆者なのかを考えながら、彼の絵を見ていたが私は反逆者であると考えた。理由としては、どこかダークな部分が描かれている為、なにか世の中に対しての不満のようなものを感じ取ったからだ。近頃、ウクライナとロシア問題が取り上げられている中で、戦争の絵を見たため、心がもやもやとした。彼の作品の中で気に入った作品は、「猿の議会」という作品だ。大勢の猿が会議をしているが、やっていることは人間とほぼ同じようだ。彼はこの作品で、人間と猿の違いはそんなにないということを伝えたいのだろうと考えた。

今回この展覧会に行って、芸術学部に進学する者として制作方法やどのような思いで作品を創っているのかを知ることが出来、作品もたくさん見れて、多くの刺激を受けた。覆面でも世界中で注目されており、芸術家は作者の顔ではなく作品で判断されることがほとんどだと思うので、芸術での成功者の作品を鑑賞できてよかった。



玉川大学新1年生 岡本麻鈴 (第49期生)

## インターン体験記③柳原桃花

株式会社 SHINDO の繊維事業営業部門に所属されている鎌田さんにお話を伺うために東京支店に向かいました。場所は渋谷区の神宮前です。SHINDO は服飾副資材の総合メーカーで、企画・開発から織・編み・組み・染め、後加工までを自社工場で一貫生産しているそうです。このような繊維事業だけでなく、産業資材事業や SC 事業(シリコン)などの事業も展開しています。なぜ繊維事業のようなファッションとは真逆の分野である二つの事業を展開させているのかというと、例えば、繊維事業の売り上げが伸びなくても、他の分野で利益を上げることで会社自体が大きな損失を受けるようなリスクを回避することができるからだそうです。また、SHINDO は海外出店が多くニューヨークやパリ、ミラノなど様々な国に支店があります。



専修大学新3年生 柳原桃花(第49期生)

鎌田さんは主にこの二つの特徴が SHINDO の強みだと仰っていました。最近では、SDGs に関連したイベントにも参加しているそうです。お話を伺った後に、SHINDO で取り扱っているリボンを見せていただきました。普段私たちが見慣れているリボンから、ニット素材の柔らかく伸縮性のあるリボンや、端にプラスチックで加工されているリボンなど様々な種類のリボンがありました。私は、リボンというと服の飾りとして使われるサテンなどのリボンしかイメージができなかったのですが、編み方や素材を変え幅広い用途で使われていることを、SHINDO に行って学びました。私は、アパレルでバイトをしているのですが、一販売員としてリボンの大きな可能性について知ることができ、嬉しいとともに、よりファッションについて勉強したいと思いました。

- ◎ 吉田つとむのインターンシップは1998年に開始、2022年3月より49期生がスタート。
- ◎ インターン生に政治活動の参加は一切求めず、あくまで社会勉強・見学のメニューです。